

厚生労働科学研究費補助金  
感覚器障害研究事業

## 日本各地の手話言語に関するデータベースの作成

平成18年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 福田 友美子

平成19(2007)年3月

## 目 次

I. 総括研究報告	
日本各地の手話言語に関するデータベース	1
福田 友美子	
II. 分担研究報告	
1. 東京地域の手話言語の収集および分析	4
福田 友美子	
2. 京都地域の手話言語の収集および分析	16
大杉 豊	
3. データベースの作成に関する研究	19
森本 行雄	
III. 研究成果の刊行に関する一覧表	24
IV. 研究成果の刊行物・別刷	24

(別添 2)

## I. 総括研究報告

厚生科学研究費補助金（感覚器障害研究分野）

### 総括研究報告書

#### 日本各地の手話言語に関するデータベースの作成

主任研究者：福田友美子 国立身体障害者リハビリテーションセンター

研究所聴覚言語障害研究室長

#### 研究要旨

手話言語には、日本語のような音声言語と同様に、地域による違いや年代による大きな違いがあることが知られている。しかし、これまでわが国において、世代や地域による違いについては、いくつかの地域で手話表現を収集することが試みられているだけで、分析的・総合的な研究は実施されてこなかった。そこで、本研究では、日本各地の地域や年代による手話表現の違いを明らかにすることを目的にした。そのために、次の2箇所、次のような研究を実施した。

①東京地域：20歳台から70歳台の広い世代のろう者14名を対象に、約50分くらいの手話表現を収録し、使用単語を調べ上げ、単語の使用状況を調べた。さらに、東京地域の在住の30歳台のろう者の手話言語を中心にして作製してある電子辞書を活用して、高齢ろう者で使用される単語の種類や語法がどのように若い世代と違うか、分析・整理した。②京都地域：東京地域と同様な研究を実施している。60歳台から80歳台の京都府立ろう学校を卒業した20名のろう者の対話での手話表現を収録し、分析した。

以上の研究で得られた結果を、研究の最終年度に、ビデオ動画を含んだデータベースにまとめる。

#### A. 研究目的

##### ①手話通訳の現場における課題

障害者自立支援法では市町村における手話通訳派遣が義務化されている。厚生労働行政においても、手話奉仕員と通訳者の養成カリキュラムが以前に策定され、地域での手話通訳の設置と派遣が推進されてきた。

また、聴覚障害者の当事者団体に委託された標準手話確定普及事業により、全国に標準手話が普及している。上述の手話奉仕員養成もこの標準手話を中心とするものである。

しかし、(1)聴覚障害者一人ひとりの受けた教育内容に差異が大きいこと、(2)地域による手話の違

いが大きいことを主な理由に、標準手話を学んだ手話奉仕員や手話通訳者が聴覚障害者の手話を読み取るときに困難さを感じる傾向が指摘されている。

とくに、高齢者の手話表現を読み取って日本語に通訳する作業が困難とされているため、高齢者が使用する手話が、若年層の手話とどういう面で違うのかという分析による成果を手話通訳養成に反映させていく必要がある。

##### ②手話の言語的認知によって生じる課題

2006年国連総会にて「障害者権利条約」の制定があった。現在は各国政府による批准段階であるが、この条約では言語を音声言語と手話言語両方

### (別添 3)

を含むものと定義している。これは国際的に手話が言語として認知されたことを示す。

よって、日本でも手話が言語であることを国民に説明して、聴覚障害者が諸権利を行使する上で手話の使用が欠かせない条件であることを法律等に反映させていく時期に入っている。

手話が言語であることを説明するひとつの方法として、日本語と同様に地域や年代によって広がりがあり、単語や文法に言語としての構造があることを示す言語地図の作成が求められている。

地域独特の手話表現を収録した単語集がいくつか出ているが、これらの成果を踏まえた上で、地域や年代による手話の違いを明らかにする、分析的・総合的な研究が、言語地図の作成にあたっての必要条件である。

#### ③ろう教育現場における課題

ろう教育においては、ろう学校の生徒数減によるさまざまな問題が指摘されているが、そのひとつに、同じ聴覚障害を持つ成人がどのように生活をしているのかを学ぶ機会が少ない点である。とくに高齢者が同じ社会の中でどのような経験をしてきたのかを知ることが重要である。

そのための具体的な方法として、たとえば同じろう学校の卒業生一人ひとりが手話で語る映像をいつでも見られるような映像ライブラリーの設置が考えられる。

#### ④本研究の目的

以上に述べた3つの課題に応えるための基礎研究として、地域や年代によるさまざまな手話表現をデータとして収集し、手話通訳養成、言語地図作成、映像ライブラリーなど汎用的な目的に応用できるシステム作りを目指す。

#### B. 研究方法

##### (1)ろう者の対話を対象にした研究

東京地域と京都地域それぞれにおいて、各地域に在住するろう者を対象に、40～50分程度の対談をしてもらい、手話表現を収録する。次に、この

一連の対話を、単語レベルに区切り、出現している各単語にラベル付けをする。データベースソフトを用いてこの結果を整理し、単語毎に検索できるデータベースを作成し、つぎのように研究を実施した。

A. 使用頻度の高い基本単語を、地域や年代による違いも考慮に入れながら、調べる。

B. 使用頻度の高い単語について、特に地域の特性や高齢者の特性を考慮しながら、どのような語義をもっているか分析する。

##### (2) 東京地域の若いろう者の手話言語についての電子辞書（作成済）を活用した研究

「日本手話学習のための基本語彙を中心にした日本手話—日本語辞書の作成」（平成11～13年度厚生科学研究費補助金）（感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業（感覚器障害研究分野））の研究で、電子辞書を作製した。この辞書に掲載してある単語や文の表現（ビデオ動画）を、東京在住で高齢のろう者にみてもらって、年代によって異なる手話表現の違いについて、ろう者に詳細なインタビューを実施し、単語の語義別に違いを整理し、手話言語の時間的な変化について検討した。

#### C. 結果と考察

##### (1) ろう者の対話を対象にした研究

###### ① 東京地域

###### A. 単語表現の変化

ろう者が生活している社会情勢の変化によって、単語の表現に変化が見られるものがあつた。その例としては、「仕事」がある。以前はろう者が就く仕事の多くは手作業によって製品を製作する職種がおおかつた、そのために「作る」の単語が「仕事」をあらわしていた。その後、印刷関係の職種がろう者の代表的な職種になり、「印刷」を表す単語で「仕事」を表現するようになった。同様の例には、「外国人」「助手」などがある。

###### B. 語彙の拡大

### (別添 3)

社会の変化に合わせて、あたらしく出現した単語がかなりあった。その例としては、「コマーシャル」がある。若い若者ではアルファベットの指文字 (CM) で表現されることが多いが、高齢者では「休憩」「宣伝」などの単語があてられる。

#### C. ロールシフトや CL の多用

高齢者の対話では、手話言語を特徴付ける「CL」が多用されていた。例えば、60歳台の若者では30歳台の若者に比べて、1.8倍多くCLが使用されていた。ロールシフト表現も多い。これらについて詳細な分析は現在進行中で、今後、報告したい。

#### ② 京都地域

A. 単語については、50～60年前の若者学校生活で使われた単語が多く見られた。一方、比較的新しいとされる単語や指文字の使用も見られるなど、高齢者が現在の手話に対応している様子が伺えた。京都府立若者学校に関わる単語については、京都地域に在住する手話通訳者が理解できないものがいくつか見られた。

B. 文法については、手の形や動きでものの形や動きを伝える機能、顔の表情が副詞や句型を伝える機能、身体の向きで話者の変換を伝える機能などが主な特徴として観察された。また、文末の指差し表現や、数字・性別手型を伴う表現などに注目すべき点が多く見出された。

#### (2) 東京地域の若い若者の手話言語についての電子辞書 (作成済) を活用した研究

平成18年度は、「日本手話学習のための基本語彙を中心にした日本手話-日本語辞書の作成」(平成11～13年度厚生科学研究費補助金(感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業(感覚器障害研究分野))の研究で作製した電子辞書を、高齢の若者にみてもらい、高齢の若者ではつかわない若い若者に特有の語法を指摘してもらった。そして、そのような新しい語法が出現してきた事情などについて、インタビューした。使用頻度の高い重要単語の中にも、高齢の若者と

若い世代でその語法が異なっているものがあった。さらに、そのように変化している語法の例文の内容を表現する手話文を、高齢の若者に表現してもらい、収録した。それらの手話文では、高齢者に多用されるロールシフトやCLの表現がよく見られた。

研究の最終年度である平成19年度には、語法が変化した単語について、高齢の若者と若い若者の手話表現を両方のせて、違いがみられるような手話言語のデータベースを作成する予定で、このような情報を学習者に提供できるようにしたい。

インタビューしたところ、変化しているものの多くは、従来の単語の語法にあらたに新しい使用方法が付け加わるものがおおかった。さらに、文の構造自体も変化してきているような印象をうけることがあった。今後データベースにまとめる。

平成1年度は、東京と京都の地域によって異なる単語とその語法を検討し、さらに、地域差と年代差について関連があるかどうかなど、検討する。

#### (3) データベースの作成に関連して

本研究では、東京地域と京都地域の2箇所、年代や地域による手話表現の違いに関する研究が進行している。本研究では、年代や地域による手話言語の違いが、基本的な単語やその語法などについても説明できるデータベースの構築を計画している。平成11～13年度厚生科学研究費補助金「日本手話学習のための基本語彙を中心にした日本手話-日本語辞書の作成」を作製するためのデータベースプログラムを、多少修正することで、利用できると考えられるので、これを活用する。ただし、今回の研究で明らかにする予定である①地域の違い②年代の違いについて、説明画面で学習者にわかりやすくするための詳しい説明をつけ加えることにする。高齢の若者に特有の手話言語表現や京都地域の手話表現などについては、平成19年度に新たに手話表現のビデオ動画ファイルを作成する予定。

(別添 3)

D. 結論

本研究では、日本各地の年代や地域による手話表現の違いを明らかにすることを目的にした。そのために、次の2箇所、次のような研究を実施した。

東京地域：20歳台から70歳台の広い世代のろう者14名を対象に、約50分くらいの手話表現を収録し、使用単語を調べ上げ、単語の使用状況を調べた。さらに、東京地域の在住の30歳台のろう者の手話言語を中心に作製してある電子辞書を活用して、高齢ろう者で使われる単語の種類や語法がどのように若い世代と違うか、分析・整理した。

京都地域：東京地域と同様な研究を実施している。60歳台から80歳台の20名のろう者の手話表現を収録し、分析した。

以上の研究で得られた結果を、研究の最終年度に、ビデオ動画を含んだデータベースにまとめる。なお、高齢ろう者の対話のビデオはそのままDVD化し、手話学習用の資料にする予定である。

E. 研究論文発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

F. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案特許
3. その他 なし

## II 分担研究報告

### 1. 東京地域の手話言語の収集および分析

#### 厚生科学研究費補助金（感覚器障害研究事業） 分担研究報告書

#### 東京地域の手話言語の収集および分析

分担研究者：福田友美子 国立身体障害者リハビリテーションセンター  
研究所聴覚言語障害研究室長

#### 研究要旨

東京地域に在住している 20 歳台から 70 歳台の広い世代のろう者 14 名を対象に、約 50 分くらいの手話表現を収録し、使用単語のラベルを調べ上げ、まず、各単語の使用頻度を調べた。さらに、東京地域の在住の 30 歳台のろう者の手話言語を中心にして作製してある電子辞書を活用して、高齢ろう者で使用される単語の種類や語法がどのように若い世代と違うか、分析・整理し、例文作製をおこなった。来年度は、語法が変化した単語について、高齢ろう者と若いう者の手話表現を両方のせて、違いがみられるような手話言語のデータベースを作成する。

#### A. 研究目的

手話言語には、日本語のような音声言語と同様に、地域による違いや年代による大きな違いがあることが知られている。しかし、これまでわが国において、地域や世代による違いについては、いくつかの地域で手話表現を収集することが試みられているだけで、分析的・総合的な研究は実施されてこなかった。そこで、本研究では、日本各地の地域や年代による手話表現の違いを明らかにすることを目的にした。また、特に高齢者では日本語能力が低いものが多いためコミュニケーションをとりにくいものが多く、さらに手話通訳する上では高齢者の手話についての知識が乏しいため通訳がむずかしことが手話通訳者の大きな悩みとなっている。高齢者の手話表現を明らかにすることは、緊急の課題になっている。そこで、本研究では高齢者の手話言語についてその特徴をあきらかにすることも目的とした。

#### B. 研究方法

① 研究の初年度である平成 17 年度には、東京地域に在住している 20 歳台から 70 歳台の広い世代のろう者 14 名（表 1）を対象に、40～50 分程度のろう者間の 2 人対談をしてもらい、約 50 分間の手話表現を収録した。次に、この一連の対話資料を、単語レベルに区切り、出現している各単語にラベル付けをした。この分析には、手話言語を母国語としている幼児期から手話言語環境で育ったろう者があつた。データベースソフトを用いてこの結果を整理し、単語毎に検索できるデータベースを作成した。

研究年度第 2 年度の平成 18 年度は、これを利用して、つぎのように研究を実施した。

- (1). 使用頻度の高い基本単語を、年代による違いを考慮に入れながら、調べる。
- (2). 使用頻度の高い単語について、特に高齢者について、どのような語義・語法をもっているか分析する。

(3). 高齢者の特徴を表現している, 例文を作成する。  
(4) 高齢のろう者に対するインタビューなどを通じて, 頻繁に使用される表現であるにもかかわらず, 所持している資料にその例がないことがわかった場合には, その単語や用法について, (2)(3)の作業に付け加える。

(1)~(4)の研究を実施するにあたっては, 「日本手話学習のための基本語彙を中心にした日本手話-日本語辞書の作成」(平成11~13年度厚生科学研究費補助金)(感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業(感覚器障害研究分野))の研究で作製した電子辞書を活用した。この辞書は東京地域在住の30歳台のろう者が中心になって, 例文など作製したものである。この辞書に掲載してある単語や文の表現(ビデオ動画)を, 高齢のろう者にみてもらって, 年代によって異なる手話表現の違いについて, 高齢のろう者に詳細なインタビューを実施し, 単語の語義別に違いを整理し, 手話言語の時間的な変化について検討した。

### C. 結果と考察

(1) ろう者の対話を対象にした研究の結果

① 14名のろう者の対話で拾い上げられた単語のラベルの数を, 表2に示した。表2に, 拾い上げられた単語の種類を, 手話単語が表現される手型別に示した。手話言語で使用される手型の種類の分類には様々な考え方があるが, 今回, 我々は表2にあげたように分類した。手話言語の単語は, 手話言語の音韻の1種である手型であらわされるが, その使用頻度には大きな違いがあるとたびたび指摘される。今回の分析で, 使用頻度の多い手型がなにかを客観的に示すことができた。

また, 使用頻度の高い単語について見てみると, たとえば手話単語「意味」や「オーバー」は若いう者では使用頻度が高いが, 高齢者では高くない。これらの単語は, 世代によって語法が異なっていて, そのため使用頻度に差が生じていると思われた。

それぞれの対象者について, 30分あたりでの対話

での総単語数と単語の種類について, 分析が集計しているものだけについて, その結果を表3に示した。ろう者が日常会話のなかでどのくらいの量の単語の種類をつかっているかなど, これまで客観的な資料がほとんどなかった。ここでの結果からみると, 高齢のろう者のほうが多くの種類の手話単語を使用しているように思われるが, 今後, その実態や原因などを検討していきたい。

### ② 単語表現の変化

ろう者が生活している社会情勢の変化によって, 単語の表現に変化が見られるものがあつた。その例としては, 「仕事」がある。以前はろう者が就く仕事の多くは手作業によって製品を製作する職種がおおかつた, そのために「作る」の単語が「仕事」をあらわしていた。その後, 印刷関係の職種がろう者の代表的な職種になり, 「印刷」を表す単語で「仕事」を表現するようになった。同様の例には, 「外国人」「助手」などがある。

### ② 語彙の拡大

社会の変化に合わせて, あたらしく出現した単語がかなりあつた。その例としては, 「コマーシャル」がある。若いう者ではアルファベットの指文字(CM)で表現されることが多いが, 高齢者では「休憩」「宣伝」などの単語があてられる。

### ③ ロールシフトやCLの多用

高齢ろう者の対話では, 手話言語を特徴付ける「CL」が多用されていた。例えば, 60歳台のろう者では30歳台のろう者に比べて, 1.8倍多くCLが使用されていた。ロールシフト表現も多い。これらについて詳細な分析は現在進行中で, 今後, 報告したい。

(2) 高齢のろう者と若いう者の手話言語の語法の違い

平成18年度は, 「日本手話学習のための基本語彙を中心にした日本手話-日本語辞書の作成」(平成11~13年度厚生科学研究費補助金)(感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業(感覚器障害研究分野))の研究で作製した電子辞書を, 高



(別添 3)

齢のろう者にみてもらい、高齢のろう者ではつかわない若いう者に特有の語法を指摘してもらった。そして、そのような新しい語法が出現してきた事情などについて、インタビューした。語法が変化している単語の例を表 4-1 に載せた。使用頻度の高い重要単語の中にも、高齢ろう者と若い世代でその語法が異なっていて、変化してきた単語があることがわかる。さらに、そのように変化している語法の例文を表現する手話を、高齢のろう者に表現してもらい、収録した。それらの手話文では、高齢者に多用されるロールシフトや CL の表現やよく見られた。

研究の最終年度である平成 19 年度には、語法が変化した単語について、高齢ろう者と若いう者の手話表現を両方のせて、違いがみられるような手話言語のデータベースを作成する予定で、このような情報を学習者に提供できるようにしたい。

D. 結論

ろう者の対話を対象にした研究を実施したところ、次のことがわかった。

- ① 14 人のろう者の 30 分くらいの日常会話で使用されていた単語の種類はのべ数は、1700 語以上にのぼっていた。
- ② 手話単語の構成要素の 1 種である手型別に単語を分類すると、手型の使用頻度にはおおきな偏りがあった。
- ③ 高齢のろう者のほうが、使用する単語の種類が

多いような傾向がみられた。

- ④ ろう者が生活している社会情勢の変化によって、単語の表現に変化が見られるものがあった。
- ⑤ 社会の変化に合わせて、あたらしく出現した単語がかなりあった。
- ⑥ 高齢ろう者の対話では、手話言語を特徴付ける「CL」や「ロールシフト」が多用されていた。以前の研究（「日本手話学習のための基本語彙を中心とした日本手話- 日本語辞書の作成」（平成 11～13 年度厚生科学研究費補助金（感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業（感覚器障害研究分野）））で作成した電子辞書を活用した研究から、次のことがわかった。

① 基本語彙のなかにも、語法が変化している単語があった。

② 平成 19 年度には、語法が変化した単語について、高齢ろう者と若いう者の手話表現を両方を載せて、違いがみられるような手話言語のデータベースを作成する

E. 研究論文発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

F. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案特許
3. その他 なし

(別添 3)

表1. 収録したろう者のプロフィール

---

70歳台	3名
60歳台	2名
50歳台	2名
40歳代	1名
30歳台	3名
20歳台	3名

---

表2. 拾い上げたラベルの種類(手型別)

---

イ	ウ	エ	オ	キ	ク	ケ
24種	29種	25種	69種	7種	307種	45種
サ	シ	タ	チ	テ	ニ	ヌ
137種	21種	89種	2種	260種	83種	23種
ヒ	メ	モ	ヤ	レ	レ(曲)	口
298種	67種	68種	85種	41種	19種	41種
		<b>顔だけの表現</b>				
中指	ILY					
4種	1種	3種				

---

(別添 3)

表 3. 30 分あたりの対話で発せられた単語の総単語数と、単語の種類の数

対象者のプロフィール	単語の総数	単語の種類数
70 歳台	2062	567
60 歳台	2625	473
60 歳台	2649	599
40 歳台	1465	326
30 歳台	2675	399
30 歳台	1357	352
20 歳台	1363	322
20 歳台	2012	408
20 歳台	1754	377

(別添 3)

表 4-1. 高齢ろう者と若い世代のろう者の単語の用法の違いの例

意味

[1] 意味 (基本)

例 1



額
APPLE 意味 りんご
上
アップル イ リンゴ

訳：appleの意味は、りんごです。

注：「意味」「意味する」の意味。日本語口型「イ」を伴うことが多い。

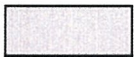
例 2



額
めんそーれ 意味 ようこそ
上
メンソーレ イ ヨウコソ

訳：「めんそーれ」は、歓迎という意味です。

例 3



額
ハロー 意味 こんにちは
上
ハロー イ こんにちは

訳：「ハロー」は挨拶の意味です。

/ハロー/がアメリカ手話なら音韻が違う。

(別添 3)

[2] 「～だから」, 「～なので」 (文末におかれる)

文末の/意味/の使用法はない。NMS で表す。

文末の/意味/は 40 歳以下が使う? 15 年ぐらい前から使われるようになった?

例 4

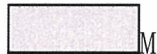


額	額	額	後
or 斜			
過去	～から	アメリカ	留学 好き PT-1 金 貯まる (サ) 飛行機 意味
上			
細	→		
マエ	カ	アメリカ	リュウガク キホウ カネ - パ イ

訳:かねてからアメリカに留学したいと思っており, お金が貯まったので渡米したのです。

注: 「～だから」, 「～なので」の意味。文末におかれることが多い。この文例のように文末に /意味/ がきた場合, 左手の動きは消失し, 必ず右手の手型「ヒ」だけの片手手話になる。

例 4 - 高齢者 F



PT-1	過去	～から	アメリカ	PT-3	勉強	あこがれ	お金	貯まる (サ)	やっと	飛行機	PT-1
機											

訳:かねてからアメリカに留学したいと思っており, お金が貯まったので渡米したのです。

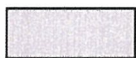
注: 例 4 と同じ内容。文末の/意味/は使わずに表現。

(別添 3)

例 4 - 高齢者 M

過去 ~から アメリカ 場所 勉強 PT-1 好き あこがれ 仕事 貯まる (サ) 成功 (下) 飛行機 ~した やっと

例 5



前→戻	領	横向き→
PT-3 突然 ダイエット 男 成功 意味 PT-3		
ル	ル	
細		
トツベン ヤセタ	ポ	イ

訳：あの人が突然やせたのは彼ができたから。

例 5 - 高齢者 A



PT-3 (気づく) 細い きれい 得意 (理解を示すうなずき(繰)) 好き 男 恋 居る (理解を示すうなずき(繰))

訳：あの人が急にやせてきれいになったのは彼ができたからなのね。

注：例 5 と同じ内容。文末の/意味/はなく、代わりに非手指動作として うなずきが繰り返して表されている。

(別添 3)

例 5 - 高齢者 B



女 きれい 細い 得意 何 男 成功 PT-1 あっそう

訳：あの人が急にやせてきれいになったのは彼ができたからなんだ。

注：例 5 と同じ内容。文末は/意味/ではなく、他の単語になっている。

例 6



	額								
お金	すぐ	なくなる	(ク)	意味	パチンコ	CL	(お金を使い果たす)	意味	PT-3
上		ル		ル		上			
							細		細————→
カネ	スガ	ペ		リュウ	パチンコ		ピピピ		バ

訳：お金がすぐになくなるのは、パチンコにつきこんでいるから。

例 6 - 高齢者



お金 すぐ なくなる (ク) 意味 パチンコ CL (お金を使い果たす)

訳：お金がすぐになくなるのは、パチンコにつきこんでいるから。

注：例 6 と同じ内容。文末の/意味/はなく、代わりに非手指動作として が表 されている。

(別添 3)

例 7

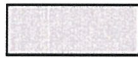


額	横ふり	額	前
PT-3	お金 貯める 何 あっそう (顔だけ)	家 買いたい	思い出 意味
	ル		
			細
カネ	ア	カタイ	イ イ

訳：お金を貯めるのは、家を持ちたいという夢があるからだったのね。

類義語：/だから/ 例 3. 例 4

例 7 - 高齢者



PT-3	お金 貯める 何 あっそう (顔だけ)	家 買いたい	思い出

訳：お金を貯めるのは、家を持ちたいという夢があるからだったのね。

注：例 7 と同じ内容。文末の/意味/ではなく、代わりに非手指動作として が表されている。

例 8



横ふり	額	前	前
道 わからない (ク)	地図 調べる	PT-3	意味
ル			上
汗 カナイ	チズ	ア	イ

訳：道がわからないので、地図で調べたらわかった。

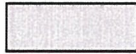
文意がとれない。同じ内容は/意味/ではなく、/なんだ (サ) / または/なんだ (テ) / で表す。



(別添 3)

[3] 理由

例 9

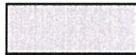


額 横向き
男 けんか 意味 お金 問題
ル 上 ル
細
イ リュウ カネ モンダイ

訳：主人と喧嘩になったのは、お金のこと。

注：「理由」の意味。日本語口型「リュウ」を伴うことが多い。

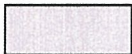
例 10



額
家 買う 意味 両親 一緒 生活 PT-3
上
仁 リュウ ヤ イッショ

訳：あの人が家を購入するのは、両親と同居するため。

例 11



横 上 + 横 ふり 前 上 →
下 下 + 前 → 戻 横向き
A: 昨日 女 けんか B: 意味 A: パチンコ 金 出る 女 怒る けんか B: 怒る (3→1) 意味 普通
上 上 ル
細
キノウ オクサン イ ウ ハ°チンコ ペ オクサ ン ピ イ ピ ミ ア列マエ

訳：A：昨日女房と喧嘩したんだ。 B：どうして？ A：パチンコにお金をつぎこんじやって、女房が怒って喧嘩になったんだ。 B：そりゃあ、奥さんも怒るよ。

注：だから～なんだ。

※「文末」表現は片手（手型「ヒ」）のみになる。

(別添 3)


例 1 1 - 高齢者



A : 昨日 女 けんか B : 意味 A : パチンコ 金 出る 女 すそまくる けん  
か B : 怒る (3→1) 普通

訳 : A : 昨日女房と喧嘩したんだ。 B : どうして? A : パチンコにお金をつぎこんじ  
ゃって, 女房が怒って喧嘩になったんだ。 B : そりゃあ, 奥さんも怒るよ。

注 : 例 1 1 と同じ内容。文末の/意味/はなく、代わりに非手指動作として が  
表されている。

昔は/怒る/を/すそまくる/  で表すことも多かった。

(別添 3)

## 2. 京都地域の手話言語の収集および分析

### 厚生科学研究費補助金（感覚器障害研究事業） 分担研究報告書

#### 京都地域の手話言語の収集および分析

分担研究者：大杉 豊 社会福祉法人全国手話研修センター  
日本手話研究所事務局長

#### 研究要旨

京都在住の高齢ろう者が使用している手話の特徴、とくに単語の使われ方を調べるために、京都地域に在住し、京都ろう学校を卒業したろう者 22 名の手話表現を映像に収録した。それぞれの手話映像をデータとして整理し、話の内容を把握するためのタイムによるインデックスを作成し、それぞれに見られる単語や文法上の特徴を記載した。

#### A. 研究目的

「日本各地の手話言語に関するデータベース作成」研究の分担研究として、京都地域に在住する京都府立ろう学校卒業生を対象とした。

京都は約 130 年に及ぶ日本のろう教育の発祥の地とされ、京都で発生した手話言語が日本全体の手話言語形成に中心的な役割を果たしたことが推察されている。また、同ろう学校卒業生を中心にろう者コミュニティが確立されていることと、本研究を行う施設として全国手話研修センターが京都にあるなど、研究条件が揃っていたことが京都を研究対象とした理由である。

本研究は、京都府立ろう学校卒業生のうち高齢者が使用する手話について、基本的な文法表現や語法を確認することを目的とする。

#### B. 研究方法

①京都地域に在住し、京都府立ろう学校を卒業したろう者 20 名（表 1）を対象として、約 50 分程のインタビュー時間をもち、手話表現を収録した。なお、手話表現の映像を研究目的に使用することについて確認を取った。

②インタビュアーは京都府立ろう学校卒業生で、同窓会事務局長経験者でもある、岩村眞一氏(70 代)が務めた。これは、60 代から 80 代に及ぶ対象者が安心してインタビューを受けられること及び、ろう学校での経験などを共有していることから話題提供が容易にできることを考慮したものである。

③インタビューの内容は、ろう学校時代の思い出、昔と現在の様子の違いなどについて、手話による会話形式にて自由に語っていただく部と、4 コママンガを対象者に見せて、インタビュアーに対して内容を手話で語っていただく部で構成された。

④手話収録にあたって、カメラを 3 台設置し、全体が入ったもの、対象者のみ、インタビュアーのみと、3 本の異なるマスターテープに同時に収めるようにした。ビデオカメラの位置を表 2 に示す。

⑤平成 17 年度研究で収録した 2 本をあわせて計 22 本となったマスターテープからコピーして作成したテープ (MiniDV) を分析に用いた。

⑥映像の手話表現を、とくに話の内容、単語や文法で注目すべき点に絞って分析し、この結果が見てわかるようなシートを対象者別に作成した。

### C. 研究結果

分析の結果、話の内容、手話の単語レベル、手話の文法レベルそれぞれにおいて、特徴が見出された。

- ① 話の内容については、京都府立ろう学校での学校生活や寄宿舎生活に関わるトピックが非常に多かった。対象者がろう学校時代に戦争時代を経験している例が多い。次いで多いトピックは学校を離れたあとの仕事についてであり、手話通訳を含めた社会福祉制度の未整備によるろう者の経験が語られている。
- ② 単語については、50～60年前のろう学校生活で使われた単語が多く見られた。一方、比較的新しいとされる単語や指文字の使用も見られるなど、高齢者が現在の手話に対応している様子が伺えた。京都府立ろう学校に関わる単語については、京都地域に在住する手話通訳者が理解できないものが多いが見られた。
- ③ 文法については、手の形や動きでものの形や動きを伝える機能、顔の表情が副詞や文型を伝える機能、身体の向きで話者の変換を伝える機能などが主な特徴として観察された。また、文末の指差し表現や、数字・性別手型を伴う表現などに注目すべき点が多く見出された。

財団法人長寿科学振興財団の研究成果等普及啓発事業の一環として、本研究の経過報告を行うセミナーを平成19年2月24日に開催する機会に恵まれた。京都地域在住の聴覚障害者を中心に180名の参加があり、本研究に協力いただいた聴覚障害者の参加も多くあった。著者の報告及びパネルディスカッションで、高齢者の手話がどう違うのかという基本的な部分についての理解を深めることが出来たほか、この研究に期待する声も多く聞かれた。

また、同セミナーでの国際手話、標準手話、ろ

う教育の各分野での発表から、研究を進めるにあたっての示唆をいくつか得ることが出来た。具体的には、国際手話形成における文法レベルの特徴が、高齢者の手話のそれと多く共通している点、標準手話確定における手話表現短縮などの留意点が高齢者の手話形成過程に自然に観察されている点、ろう教育において手話による語りの効果に注目が高まっている点で本研究と方法論的に共通点が見出される点、である。

### D. 考察

本研究が方法論の確立に重点を置き、手話映像をデータとして整理した上で、手話通訳養成やろう教育などの現場での活用など、汎用性をもつデータベースの可能性について見通しを得たこと、これが本研究の本年度における成果のひとつである。

もうひとつの成果は、分析の結果に京都地域の手話としての特徴と、高齢者の手話としての特徴が見出され、他の地域や他の年代の手話データと比較するための準備が完了した点である。

そこで、最終年度となる平成19年度においては、本研究の目的に沿って、①話の内容、単語や文法上の特徴から手話映像を検索できるシステムの確立、②同じ京都府立ろう学校卒業生の若年層(30～40代)へのインタビュー実施による手話映像データの増強、③京都地域での年齢層による手話の違いの分析、④東京地域と京都地域間における手話表現の違いについての比較分析が具体的な作業となる。

なお、④については、「日本手話学習のための基本語彙を中心にした日本手話-日本語辞書の作成」(平成11～13年度厚生科学研究費補助金(感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業(感覚器障害研究分野))の研究で作成された東京地域の手話言語電子辞書を活用する。

### E. 結論